

(お知らせ)



京都市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。



令和3年11月29日
京都市保健福祉局
健康長寿のまち・京都推進室
健康長寿企画課
電話 746-7734

第5回「認知症とともに生きるまち大賞」の本賞を受賞しました！！



京都市では、令和3年度からの新規事業「認知症サポーター活動促進事業」において、認知症の当事者・家族の声を聞きながら、認知症の当事者・家族が社会参加できる地域づくりを認知症サポーターを含めた地域住民とともに進めています。

その取組の中で、上京区在住の認知症当事者の「コロナ禍の中、もっと身近な地域の中で人と繋がり、安心して出かけられる場所が欲しい」という思いをきっかけに、当事者と地域住民、専門職による「チーム上京！」が発足しました。地域のボランティア団体等との連携による当事者の自宅ガレージでのカフェの開催などを通じて、新たな地域の繋がりや交流が生まれています。

この度、この「チーム上京！」の取組が、NHK及びNHK厚生文化事業団が主催する第5回「認知症とともに生きるまち大賞」の本賞を受賞しましたのでお知らせします。

記

1 認知症サポーター活動促進事業について

認知症の当事者・家族の支援ニーズと認知症サポーターを中心とした支援者を繋ぐ仕組みを構築するため、コーディネーター1名を京都市長寿すこやかセンター（指定管理者：市社会福祉協議会）に新たに配置し、認知症の当事者・家族の社会参加活動の支援を行っている。

2 「チーム上京！」について

(1) 経緯

京都市長寿すこやかセンターが運営する若年性認知症本人交流会「おれんじサロン ひと・まち」において、当事者同士が語り合う本人ミーティングを開催したところ、一人の当事者から「コロナ禍の中、もっと身近な地域の中で人と繋がり、安心して出かけられる場所が欲しい」との声があがった。

これを受けて、コーディネーターが当該当事者が居住する上京区で市民活動等を

している人たちに声をかけ、当事者の思いを実現するためのミーティングを開催し、「チーム上京！」の発足に至った。

(2) 「チーム上京！」の主なメンバー

認知症当事者、当事者の家族、上京区の住民有志及び福祉専門職

(3) 主な活動内容

- ・認知症当事者の自宅前ガレージを解放し、こだわりコーヒーを提供するシニア男性の会による出張カフェを開催し、地域住民の交流の場を作り出している。
- ・子どもたちの自主的な学び・遊びを支援する団体等に自宅前ガレージを提供したり、団体が公園で行うキャッチボールやフラワーアレンジメント教室等に参加するなど世代を超えた交流を行っている。

3 「認知症とともに生きるまち大賞」の概要について

(1) 概要

NHKとNHK厚生文化事業団が実施している認知症があっても暮らしやすい地域づくりを行っている団体への表彰。平成29年度から始まり今回で5回目。

(2) 応募団体数

30団体

(3) 受賞団体数

本賞：4団体、オレンジハート賞（特別賞）：3団体

(4) 選考基準

- ・共生社会に向けた先駆性、オリジナリティー
- ・認知症当事者が望む活動を本人がともに進めているか
- ・活動が多様な人々とともに進み、地域に広がっているか
- ・他の地域への応用可能性

(5) 「チーム上京！」の受賞の主な理由

- ・コロナ禍で孤立する当事者自らが動いた地域活動であること。
- ・ひとりの当事者の思いを中心にして語り合うことから始まったまちづくりだが、どこでも誰もが取り組めることから、各地から関心を寄せられていること。
- ・この活動の代表が当事者自身であること。

4 その他

○（社福）NHK厚生文化事業団のホームページに受賞団体が掲載されている。

URL：<https://www.npwo.or.jp/info/20392>

○受賞に関するスケジュール

- ・12月19日（日）表彰式
- ・12月27日（月）ハートネットTVにおいて「認知症バリアフリーのまち大集合！（仮）」放送予定
- ・来年1月以降 NHK厚生文化事業団ホームページにおいて活動の様子を紹介するWeb用動画を掲載予定

○認知症サポーター活動促進事業の枠組みとは異なるが、市内在住の若年性認知症の当事者と協力者でつくる「さんげつ会」が、本年11月1日に叡山電鉄株式会社の協力により叡山電車八瀬駅で開催した認知症カフェ「駅カフェ」についても、同大賞の「オレンジハート賞（特別賞）」を受賞している。